

一視同仁の思想を体現した日本人公墓

一番拍手が少なかった中日文化交流会での大類スピーチ

《方正友好交流の会を代表して、ご挨拶申し上げます。まず、「蓮の花祭典」をお祝い申し上げますとともに、この素晴らしい日にお招きいただきありがとうございます。

さて日本は、3月11日に未曾有の体験をいたしました。一つは日本の東北を襲った大震災です。その次に、大津波が生じ、多くの死者と行方不明者を生み出しました。日本国内で起きた自然災害で死者・行方不明者の合計が、2万人を超えたのは戦後初めてです。そして次に福島原子力発電所の事故が起きました。

この大震災と原発事故に際しては、中国の方々からいただいたご支援ご声援、とりわけ方正州政府からいただいたご支援に、大変感激しております。

福島の原発事故では、中国の三一重工の大型ポンプ車が無償で寄贈され、今なおこのポンプ車が活躍しております。温家宝首相も被災地を訪問されました。このニュースを知った多くの日本人は感激しております。困った時に救援の手を差し伸べてくれる友人こそ真の友人であります。皆様がたのご支援に、改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

日本では、原子力発電所の建設がずっと国策として推進されて来ました。そして人々は、政府や東京電力などの電力会社、原発を推進する学者たちによって、「原発は安全である」と信じ込まされてきました。電力会社は、膨大な広告宣伝費用を大新聞やテレビに投入し、その結果、既存のマスメディアは、原発は安全であるという「神話」を多くの人たちに伝える役を担って来ました。

地震や津波は明らかに天災と言えます。しかし原発事故は、「原発は安全だ、安全だ」と言い、想定すべき対策を怠ってきた「人災」といえるでしょう。

このような事態に関して今、日本でも婦人層を中心に「原子力発電を止めよう」という脱原発の声が急速に広がっています。

原発事故の恐ろしさは、放射能汚染が国境を越えて吐き出され、広がるということです。ソ連のチェルノブイリ事故で初めて、「地球被曝」という言葉が生まれました。原発問題は、まさに地球的規模の環境問題でもあります。

今日求められているのは、我々はこの地球に生き、この世界に生きる人間であること。そのことを十分に認識して自国のあり様と地球の生態系を考えることだと思います。

さて日本の国策といえば、かつて中国に侵略した日本、そして旧満州へ開拓民として中国へ渡った人たちもまた国策によるものでした。開拓民は、中国の人々にとって加害者であり、また一方、日本の誤れる国策による被害者でもありました。

周知のように、亡くなった開拓民たちの婦女子が葬られている日本人公墓が1963年に、ここ方正県に建立されています。

この公墓は、残留日本人の松田ちよさんという一女性が、野晒しの日本人の遺骨を埋葬したいという願いから生まれました。当時の方正州政府、黒竜江省政府、周恩来総理など中国

政府指導者は、国際主義的な友愛精神の下に、日本の開拓民たちも日本の軍国主義の犠牲者であると認め、その婦人の願いを聞き入れ、公墓が建立されました。それは一視同仁の思想、すなわち、だれかれの区別なく、すべての人を平等に大切にするという考えの下に建立されたということでもあります。

私たち「方正友好交流の会」は、日中両国の歪んだ狭隘なナショナリズムや「愛国主義」を超える鍵が、方正日本人公墓の存在にある、と考えました。この公墓建立の思想である国際主義的な友愛精神こそ、争いのない世界を作る基本的な考えであり、公墓の存在を通じて、この思想、精神を日本人に知ってほしいと考え、会報『星火方正』を発行しております。

そして、『星火方正』でこの日本人公墓を知った映画作家の羽田澄子さんは、『嗚呼 満蒙開拓団』という記録映画を創りました。この映画を観て公墓の存在を知った人々は、中国政府及び中国の人たちの寛大な心に感動いたしました。

まさに方正日本人公墓は、日中友好の源流の一つであり、方正県は日中の人々の魂の絆で結ばれている地であります。

そのためにも、公墓参拝者に公墓の由来を十分に伝える必要があると思いましたが、昨日公墓を参拝し、その由来を記した石碑が立っているのを知りました。実は、公墓の背面に碑文を書き入れるよう提案し、次代の世代にこの事実を伝えることの重要性を指摘し、『星火方正』に寄稿し提言してくれたのは趙喜晨先生でした。かつて黒竜江省人民政府外事弁公室に勤務され、公墓の墓石を選び、「方正地区日本人公墓」という墓碑の文字を書いた人を選び、その上、墓石をハルビンから方正まで、松花江を船で輸送するという重要な仕事を、責任をもって遂行されたのが趙喜晨先生であります。

趙先生は、例えば次のような碑文を刻んだらどうかと提案していただきました。とても素晴らしい文章なのでご紹介いたします。

《1931年9月 日本は東北三省を占領するや植民地政策を実施 日本の農民を広大な農地に送り込む 開拓団として農耕に励むも 時の流れ速く 1945年8月 日本軍降伏 あまた開拓民 惶惶として逃げ惑う 九死に一生を得て方正に辿り着くも 飢餓 酷寒 疫病に耐え切れず 罪なき亡霊五千 1963年春 荒地開墾の残留婦人 白骨を発見して惶懼 これを集めて埋める 申請を受けてこの年5月 中国政府 仁慈の心をもって碑を建て 亡魂を悼み 故国を想いながら他郷に没した魂魄を慰む 後世の者 前の経験を忘れず後の教訓とせんことを 中日の戦 永遠にやみ 善隣友好を 永遠に忘れぬために》

また方正県政府は、公墓の後方に埋葬者名簿を刻銘する碑を建立されました。亡くなった人々全員の名前を記すのはなかなか難しい作業ですが、これもぜひ私たち方正友好交流の会と情報を共有しながら進めていければと思っております。

私たちは、侵略された国の人々が、侵略側の人たちのお墓を建てるという寛大で崇高な精神の表現である方正日本人公墓の存在を、更に多くの人々に伝えていきたいと考えています。ありがとうございました。》

体现了一视同仁思想的日本人公墓

—方正【莲花祭典】中日文化交流会议讲稿—

大类 善启

(方正友好交流会事务局长)

我代表方正友好交流会，向各位表示问候。首先，祝贺【莲花祭典】的成功举办，同时，对能在今天这样不同以往的日子得到邀请表示感谢。

3月11日，日本经历了前所未有的体验。首先，大地震袭击了日本东北部；其次，随之而至的海啸夺去了许多人的生命还有很多人去向不明；随后，又爆发了福岛核电站的事故。战后由于国内的自然灾害而导致的死亡和失踪者的合计人数超过2万人的还是首次。

对于在此次大地震和核电站事故发生之际，来自中国各个方面的支援和鼓励，特别是来自方正县政府的支援表示衷心的感谢。

在福岛核电站事故发生之际，中国的三一重工无偿提供了大型的水泥泵车，现在依然活跃在核电站事故现场。温家宝总理也亲访灾区。所有知道这则新闻的日本人都心存感激。在困难的时候伸出援助之手的朋友才是真正的朋友。对各位无私的支援，再次致以诚挚的谢意。

日本一直将建设核电站作为国策加以推进。于是国民们完全相信了政府和东京电力等电力公司以及促进核电的学者们所鼓吹的【核电安全论】。电力公司在全国性报纸以及主要电视台上投入了庞大的宣传费，其结果就是让新闻媒体成为向大众传播【核电安全神话】的帮凶。

地震和海啸是【天灾】没错。但是，核电站事故却是由于人们沉溺于【核电安全！核电安全！】的假象，而懈怠于采取完全能够设想的对策的【人灾】。

随着事态的发展，在日本以妇女为中心，【停止核电】的反核电的呼声迅速地蔓延。

核电站事故的可怕之处在于国境阻挡不了放射线污染的传播和扩散。苏联的切尔诺贝利事故时首次产生了【地球辐射】的新名词。核电站问题正是这种地球规模的环境问题。

我们要充分认识我们赖以生存的地球和这个世界，并在此基础上考虑自己国家的应有的存在方式。

我们要充分认识到我们作为地球的一员和世界公民的角色，并且在此基础上，慎重地维持和保护地球的生态系。

说到日本的国策，曾几何时侵略中国的日本以及作为旧满洲的开拓民奔赴中国的人们也是日本国策的牺牲品。开拓民对于中国国民来说是加害者，另一方面也是日本错误国策的受害者。

如大家所知道的那样，埋葬死去的开拓民的妇女儿童的日本人公墓于1963年就建在这里的方正县。

一名名字叫做松田知惠的残留日本人女性决心要把散落荒野的日本人遗骨加以埋葬的宏

愿促成了这座公墓诞生。当时的方正县政府、黑龙江省政府、周恩来总理等中国政府领导人本着国际友爱的精神，在承认日本开拓民们也是日本军国主义的受害者的前提下，接受了那位女士的请求，建起了这座公墓。可以说这座公墓是建立在一视同仁的思想，即不分你我，所有人一律同等重要的思考方式的基础之上的。

【方正友好交流会】认为超越日中两国的狭隘的民族主义和所谓的爱国主义的关键就在于方正日本人公墓。作为建设这座公墓的思想基础的国际主义的友爱精神才正是创造一个没有纷争的世界的思想基础。为了让日本人通过知道公墓的存在而了解到上述精神和思想，我会定期发行会刊【星火方正】。

通过【星火方正】了解到公墓的由来的电影导演羽田澄子女士创作了纪录片【啊！满蒙开拓团】。通过这部影片了解到公墓存在的人们被中国政府以及中国人民的宽大的胸怀所感动。

甚至可以说，方正日本人公墓是日中友好的源流之一，方正县是日中两国人民的魂萦梦牵之地。

为此，一直在想有必要向公墓参拜者充分传达公墓的由来。昨天参观公墓方知镌刻有公墓由来碑文的石碑的存在。事实上，向【星火方正】投稿强调向后代的人们传达此事实的重要性，并提议镌刻背面碑文的不是别人正是赵喜晨先生。当年赵先生就职于黑龙江省政府外事办，负责并且完成了选择碑石、选择书写碑文【方正地区日本人公墓】的人选、并且将碑石从哈尔滨沿松花江用船运到方正县的重要工作。

赵先生建议可否镌刻诸如以下内容的碑文。文章非常精彩特介绍如下：

【1931年9月 日占东三省 实施殖民策 派日本农民 到广袤农村 作为开拓团 致力于农耕 时光如飞矢 1945年8月 日本军降伏 所余开拓民 惶惶逃且匿 九死又一生 流落于方正 终难耐饥饿 严寒和疾病 无辜魂五千 1963年春 垦荒残留妇 觅白骨惶恐 欲集而埋之 申请并受理 政府仁慈心 建碑悼亡魂 游魂念故乡 到此终慰藉 后世之来者 不忘后事师 中日永不战 永结善邻好 】

另外方正县政府还在公墓的后方，建立了一座镌刻埋葬者姓名的碑。镌刻所有埋葬者姓名是一件非常艰难的作业，但是希望此计划在与【方正友好交流会】互相沟通的前提下得以推进。

我们的愿望就是：希望能够让更多的人了解到那座代表着被侵略国家的人民为侵略国的人民建造的体现了宽大崇高的精神的日本人公墓的存在。

谢谢大家！

(賈廣鑫、グリザテイ・バヤハメテイ訳)